

[3] 母校だより

(1) 京都大学地球系教室及び関係教室の近況

(a) 社会基盤工学専攻・都市社会学専攻の近況報告

社会基盤工学専攻専攻長 八木 知己

ただいまご紹介いただきました、平成30年度社会基盤工学専攻の専攻長を仰せつかっております八木知己と申します。平成2年学部卒、平成4年修士課程修了でございます。それでは、土木系教室の近況を報告させていただきます。実は昨年に引き続き、2年連続でございます。



まずは表1に示します通り教員の在籍状況をご報告申し上げます。土木系の研究室は、社会基盤工学専攻21研究室、都市社会学専攻17研究室、地球環境学堂1研究室、情報学研究科3研究室、計42研究室ございます。本会の冒頭に黙祷頂きました通り、白土博通教授が5月31日にご逝去されました。葬儀に際しましては、多数の皆様にご参列頂きまして、どうもありがとうございました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。この1年間の人事異動を表2にお示しいたします。退職いたしました教員としては、堤大三准教授が三重大学教授へ、乾徹准教授が大阪大学教授へ、鈴木康夫助教が富山大学准教授へ、中村俊之助教が名古屋大学へ、水谷英朗助教がハイドロ総合技術研究所へ異動しております。新規採用といたしましては、川端祐一郎助教が着任しております。また、山田忠史教授と音田慎一郎准教授が昇任しております。さらに学内異動といたしまして、寶馨教授が総合生存学館・学館長へ、山田忠史教授が経営管理研究部教授へ、萬和明助教が工学基盤教育研究センター講師へ異動しております。

続きまして、土木系学生の本年4月の就職状況を表3にお示しいたします。ほぼ例年通りの就職状況ですが、就職担当の木村亮教授の尽力で建設会社への就職が復活傾向でございます。京土会の皆様におかれましては、何卒ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

表1 土木系教室の講座・分野 (H30年5月現在、一部6月の人事を含む)

社会基盤工学専攻

講座名	分野名	教授	准教授, 講師	助教
応用力学			西藤 潤, Khayyer, Abbas	田中 智大 <sup>+</sup>
構造工学	構造材料学	高橋 良和	山本 貴士	高谷 哲
	構造力学	杉浦 邦征 <sup>+</sup>	松村 政秀	
	橋梁工学	白土 博通	安 琳	
	構造ダイナミクス	八木 知己	—	野口 恭平
	国際環境基盤マネジメント	—	金 善玟, 張 凱淳	
水工学	水理環境ダイナミクス	戸田 圭一 <sup>*</sup>	山上 路生	岡本 隆明
	水文・水資源学	立川 康人	市川 温, 萬 和明 <sup>**</sup>	
地盤力学	地盤力学	木村 亮	木元小百合 <sup>*</sup>	澤村 康生
	社会基盤創造工学	金 哲佑		
空間情報学		宇野 伸宏	須崎 純一	木村 優介
都市基盤設計学	景観設計学	川崎 雅史	山口 敬太	
	沿岸都市設計学	後藤 仁志	原田 英治 <sup>+</sup>	五十里洋行
防災工学 (防災研究所)	砂防工学	藤田 正治	竹林 洋史	宮田 秀介
	防災水工学	中川 一	川池 健司	
	地盤防災工学	渦岡 良介	—	上田 恭平
	水文気象工学	中北 英一	山口 弘誠	
	海岸防災工学	—	森 信人	—
	防災技術政策		佐山 敬洋, Lahournat Florence	
	水際地盤学	平石 哲也	(馬場 康之)	
計算工学 (学術情報メディアセンター)		牛島 省		鳥生 大祐

\*: 経営大学院併任, +: 地球環境学堂併任, \*\*: 工学基盤教育研究センター

## 都市社会工学専攻

講座名	分野名	教授	准教授	助教
構造物マネジメント工学		河野 広隆*	服部 篤史	松本 理佐
地震ライフライン工学		清野 純史	古川 愛子	—
河川流域マネジメント工学		細田 尚	音田慎一郎	
ジオマネジメント工学	土木施工システム工学	大津 宏康	Pipatpongsa, Thirapong	北岡 貴文
	ジオフロントシステム工学	三村 衛	肥後 陽介	澤田 茉伊
	国際都市開発		Flores, Giancarlo, Qureshi, Ali Gul	
都市社会計画学	計画マネジメント論	小林 潔司*	松島 格也	瀬木 俊輔
	都市地域計画	—	松中 亮治	大庭 哲治
都市基盤システム工学		岸田 潔		—
交通マネジメント工学	交通情報工学	山田 忠史*	Schmöcker, Jan-Dirk	
	交通行動システム	藤井 聡		川端祐一郎
都市国土管理工学 (防災研究所)	耐震基礎	澤田 純男	後藤 浩之	
	地域水環境システム計画	田中 茂信	田中 賢治	
	水文循環工学	堀 智晴		野原 大督
	災害リスクマネジメント	Cruz, Ana Maria	横松 宗太	
	自然・社会環境防災計画学	角 哲也	竹門 康弘, Kantoush, Sameh Ahmed	
	都市耐水	五十嵐 晃	米山 望	

\*：経営管理大学院併任

## 地球環境学堂（都市社会工学専攻）

講座名	分野名	教授	准教授	助教
社会基盤親和技術論		勝見 武		高井 敦史

## 情報学研究所 社会情報学専攻

講座名	分野名	教授	准教授	助教
地域・防災情報システム学 (防災研究所)	総合防災情報システム	多々納裕一	Subhajyoti Samaddar	
	巨大災害情報システム	矢守 克也	大西 正光	—
	危機管理情報システム	畑山 満則		

表2 土木系教員人事異動（H29年6月～H30年5月）

●退職	
社会基盤工学専攻	
H29.9.30	辻本浩史 特定教授（防災研究所 気象・水象災害研究部門 気象水文リスク情報研究分野寄附研究部門・日本気象協会）
H30.3.31	堤 大三 准教授（防災研究所 流域災害研究センター・流域圏観測研究領域（穂高砂防観測所））⇒ 三重大学生物資源学部教授 鈴木 康夫 助教（社会基盤工学専攻 構造工学講座 構造力学分野）⇒ 富山大学大学院理工学研究部准教授 水谷 英朗 助教（防災研究所 流域災害研究センター・沿岸域土砂環境研究領域）⇒ （株）ハイドロ総合技術研究所
都市社会工学専攻	
H29.7.3	中村俊之 助教（交通マネジメント工学講座 交通情報工学分野）⇒ 名古屋大学
地球環境学堂（都市社会工学専攻）	
H29.6.1	乾徹 准教授（社会基盤親和技術論講座）⇒ 大阪大学教授
●採用	
社会基盤工学専攻	
H29.9.1	大東忠保 特定助教（防災工学講座 水文気象災害分野）
H29.10.1	佐々木寛介 特定准教授（防災研究所 気象・水象災害研究部門 気象水文リスク情報研究分野寄附研究部門・日本気象協会）

都市社会学専攻 H29.8.1	川端祐一郎 助教 (交通マネジメント工学講座 交通行動システム分野)
●昇任 社会基盤工学専攻 H29.8.1	音田慎一郎 准教授 (河川流域マネジメント工学講座)
都市社会学専攻 H30.3.1	山田忠史 教授 (都市社会学専攻 交通マネジメント工学講座 交通情報工学分野)
●異動 社会基盤工学専攻 H30.4.1	寶 馨 教授 (社会防災研究部門・防災技術政策研究分野) ⇒ 全学教員部(大学院総合生存学館)学館長・教授 萬 和明 助教 (社会基盤工学専攻 水工学講座 水文・水資源学分野) ⇒ 工学研究科附属 工学基盤教育研究センター講師へ
都市社会学専攻 H30.4.1	山田 忠史 教授 (都市社会学専攻 交通マネジメント工学講座 交通情報工学分野) ⇒ 経営管理研究部教授

表3 土木系学生の就職状況 (H30年4月)

就職先	学部	修士	博士	合計
内閣・各府省	2	6		8
独立行政法人・団体		2		2
学校		1	1	2
地方庁		3		3
道路	2	6		8
電気・ガス・水道		9		9
鉄道・航空	1	18		19
建設	1	11		12
鉄鋼・鉄構・機械・プラント・石油・造船	1	16		17
コンサルタント・設計	1	21		22
商社・銀行		9		9
情報通信・電機・電子・システム	1	11		12
不動産		3		3
サービス業・その他	2	6		8
合計	11	122	1	134

本年度も、昨年に引き続き、特色入試を経て3名の学生が地球工学科に入学して参りました。「授業科目の一環として実施した課題研究や科学に関する課外活動において顕著な実績をあげた者、又は高校課程の数学、物理、化学の内少なくとも1科目においてきわめて優れた学業成績を修めた者」を選抜いたしました。センター試験も併せて受験する必要があります。倍率は3.3倍でございました。

続きまして、恒例ではございますが、土木系教室の国際化への取り組みをご紹介します。京土会の皆様から、奨学金、留学生の実習受け入れ、日本人学生の海外インターンシップ等で多大なご支援を頂いております学部国際コース、ご逝去の前ですが、代表が白土博通教授から清野純史教授へ交代となりましたミャンマー工学教育拡充支

援活動、大津宏康教授が代表を務めております大学の世界展開力強化事業等がございます。昨年の報告と同様となりますので、本年度は国際コースの状況と大学の世界展開力強化事業の協力を受けました国際コースの国際インターンシップについてご報告させて頂きたいと存じます。国際コースは、平成23年度に一期生を受入れて以来、7年が経過し、これまでの累計で留学生71名、日本人学生67名、計138名の学生を受入れてきました。本年度は、初めてタイとブラジルから留学生を迎えることができました。留学生の教育のみならず、日本人学生の国際化教育にも注力しております。国際コースの正規の授業科目である国際インターンシップでは、日本人学生は海外の現場へ、留学生は国内の現場へ派遣しております。昨年度より、世界展開力強化事業「気候変動下でのレジリエントな社会発展を担う国際インフラ人材育成プログラム」の協力を受けて、日本人学生の海外派遣を実施しております。以前の世界展開力強化事業プログラムでは修士課程の双方向短期プログラムのみでしたが、長期プログラムに加えて、学部学生や博士課程の学生の留学・インターンシップも取り入れた、あらゆる学年の学生を対象としたプログラムに生まれ変わっております。国際コースでは、この学部学生対象のプログラムと連携しております。昨年度は、ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムの現場に6名の学生を派遣いたしました。また、留学生は10箇所の国内の現場に派遣いたしました。受入れて頂いた企業に厚く御礼申し上げます。インターンシップ終了後には学内で発表会を実施した上で単位認定すると共に、毎年11月に開催しております「京都大学工学部地球工学科国際コース奨学金基金およびインターンシップにご支援頂いている皆様と教員・学生の交流会」でもご報告させて頂いております(写真1参照)。

毎回、国際化の話ばかりしておりますが、もちろん土木系教室では通常の研究・教育はしっかりやっております。加えて、世界で活躍できる技術者・研究者の育成を目指し

て国際化を図っております。引き続き、ご指導ご支援頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。以上、土木系教

室の近況報告とさせていただきます。どうもありがとうございました。



写真1 第7回京都大学工学部地球工学科国際コース奨学金基金およびインターンシップにご支援頂いている皆様と教員・学生の交流会（平成29年11月13日）

(b) 都市環境工学専攻の近況報告

都市環境工学専攻長 高岡 昌輝

本日はご多忙のところ京土会総会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。私は本年度、都市環境工学専攻の専攻長を仰せつかっております平成30年衛生卒の高岡と申します。よろしくお願いいたします。



都市環境工学専攻関連の近況について簡単にご報告させていただきます。

恒例によりまして、人事異動について報告申し上げます。まずは、新規採用といたしましては、平成30年4月1日に藤森真一郎氏が国立環境研究所より環境システム工学講座大気・熱環境工学分野の准教授に、中西智宏氏が環境システム工学講座水環境工学分野助教に着任されました。また、平成30年3月31日には、物質環境工学講座環境質予見分野山下尚之講師が愛媛大学農学部にて教授として転出されまし

た。さらに、配置換としましては、平成30年4月1日には環境デザイン工学講座水野忠雄講師が環境システム工学講座水環境工学分野に、環境デザイン工学講座の私、大下和徹准教授、藤森崇助教が地球環境学から工学研究科へ戻ってまいるとともに、環境衛生学講座の高野裕久教授、上田佳代准教授、本田晶子助教が工学研究科から地球環境学堂の所属となっております。高野教授の地球環境学堂での研究室の名前は、「環境健康科学論」です。

この人事異動によりまして、現在の都市環境工学専攻関連の教員一覧は下表のようになっております。

表に示されておりますように、14の研究室で構成しており、桂キャンパスの6研究室、色がついております部分は大津市、琵琶湖のほとりにあります流域圏総合環境質研究センターの2研究室、吉田キャンパス内でこの建物の西側にあります環境安全保健機構の2研究室、さらに、大阪府熊取町にあります複合原子力科学研究所内の2研究室が都市環境工学専攻を構成しております。さらに、この吉田キャンパス内にごございます地球環境学堂に所属しております環境調和型産業論分野およびエネルギー科学研究科のエネルギー環境学分野を合わせ、14研究室、38名の教員で活動しております。

これらの研究室は京土会の皆さまよりご支援を賜りまして、順調に発展を遂げてまいりました。ここに改めて心より感謝申し上げますとともに、引き続き、ご支援のほどをよろしくお願いいたします。

当専攻の近況に関しご報告すべきこととして、まず、アジアを中心とした国際的活動の現況をお話させていただきますと思います。中国・深圳拠点オフィスは清華大学深圳キャンパスに、マレーシア拠点オフィスはマラヤ大学に、

表1 都市環境工学専攻関連教員一覧 (38名)

大学院	専攻	講座名	分野名	教授	准教授	講師	助教		
工学研究科	都市環境工学	環境デザイン工学		高岡 昌輝	大下 和徹		藤森 崇 日下部武敏		
		環境衛生学*		高野 裕久	上田 佳代		本田 晶子		
		環境システム工学	水環境工学			西村 文武	日高 平 水野 忠雄		
			環境リスク工学	米田 稔	島田 洋子			五味 良太	
			大気・熱環境工学		藤森真一郎				
		都市衛生工学	伊藤 禎彦	小坂 浩司			中西 智宏		
		物質環境工学	環境質管理	清水 芳久	松田 知成				
			環境質予見	田中 宏明				中田 典秀 井原 賢	
			環境保全工学	酒井 伸一	平井 康宏			矢野 順也	
			安全衛生工学	橋本 訓	松井 康人				
			放射能環境動態		藤川 陽子			窪田 卓見	
			放射性廃棄物管理		福谷 哲			池上麻衣子 芝原 雄司	
		地球環境学大学院	地球親和技術学廊		環境調和型産業論	藤井 滋穂	田中 周平		原田 英典
		エネルギー科学研究科	エネルギー社会・環境科学	エネルギー社会環境学	エネルギー環境学	東野 達	亀田 貴之		山本 浩平

ベトナム・ハノイ拠点オフィスをハノイ理工科大学に、タイ・バンコク拠点オフィスをマヒドン大学に置き、活動を継続し、優秀な留学生の獲得や学生の国際間交流に役立てております。

具体的には、中国・深圳拠点オフィスは2005年に開設し、2012年度で終了したGCOEやEMLプログラム後も民間企業からの寄付や総長裁量経費等で活動を継続しております。クロスアポイントメント教員（特定助教）と事務員を配置し、新築のエネルギー・環境棟へ移転、拡充しております。地球環境学堂が共同学位プログラムを進める予定にしております。マレーシア拠点オフィスは、2010年に開設し、その後も、JSPSアジア研究教育拠点事業「リスク評価に基づくアジア型統合的流域管理のための研究教育拠点」（2011年度～2015年度）、JSPS二国間交流事業（2017～2019年度）等で活動を継続しております。ベトナム・ハノイ拠点オフィスは2008年に開設し、2012年度で終了したGCOEやEMLプログラム後も地球環境学堂を中心とした全学経費や概算要求特別経費などで活動を継続しております。タイ・バンコク拠点オフィスは2015～2018年度の算要求特別経費による事業を契機に2016年に設置しております。クロスアポイントメント教員（特定准教授）と事務員を配置し、京大・マヒドン大学間の共同学位プログラムをすでに実施しております。

次に、今年は京都大学工学部衛生工学科の設立60周年でございます。いくつかのイベントを学内外で準備しております。7月27日には衛生工学科創立60周年記念セッションと題しまして、百周年時計台記念館 国際交流ホールで、東大、北大の先生をお招きしてシンポジウムを開催いたします。今後とも京土会の皆さまよりご支援を賜りまして、これらの活動を充実させていきたいと考えております。

最後に就職状況についてご報告申し上げます。この表に示しますとおり、昨年度卒業、修了生は30名でした。その内訳としては、環境省に1名、地方公務員は、3名でありました。また、民間では環境装置メーカー、コンサルタントなどが多くなっておりますが、近年学生の進路先は多様化しております。

### 平成29年度卒業・修了生の進路

就職した卒業・修了生： 30名

#### 公務員：

環境省，京都府，福岡県，京都市

#### 民間：

鴻池組，三菱UFJリサーチ&コンサルティング，三菱重工環境・化学エンジニアリング，JFEエンジニアリング，奥村組，日水コン，日立製作所(2)，ヴァリユーズ，日立造船(2)，ヴェオリア・ジェネッツ，ニッセイ情報テクノロジー，日本ロレアル，川崎重工業(2)，みずほ情報総研，西日本高速道路，ダイキン工業，中国電力，エックス都市研究所，SKSジャパンホールディングス，ジーニー，日本テレビ，新日鐵住金ソリューションズ，

現在、ご選考いただいておりますところではありますが、引き続きよろしくお願いたします。

以上、都市環境工学専攻の近況を簡単にご報告させていただきました。引き続き、よろしくご鞭撻ならびにご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

平成30年度の卒業・終了予定者の就職につきましても、

(2) 人事異動 (平成29年10月～平成30年10月)

(職名は異動後の職名, 但し ( ) 内は異動前の職名)

【社会基盤工学専攻】

H29.11.1	HANITTINAM PATINYA	特定研究員	新規採用
H30.3.31	鈴木 康夫	(助教)	辞職 (富山大学工学研究部准教授へ)
H30.3.31	堤 大三	(准教授)	辞職 (三重大学生物資源学部教授へ)
H30.3.31	水谷 英朗	(助教)	辞職
H30.4.1	寶 馨	教授	社会基盤工学専攻防災工学講座防災技術政策分野より全学教員部 (大学院総合生存学館) 教授へ配置換
H30.4.1	萬 和明	講師	社会基盤工学専攻水工学講座水文・水資源学分野助教より工学研究科附属工学基盤教育研究センター講師へ配置換
H30.4.1	TALCHABHADEL, Rock	特定研究員	新規採用
H30.4.1	KHUJANAZAROV, Temur	特定研究員	新規採用
H30.7.1	五井 良直	助教	新規採用

【都市社会工学専攻】

H30.3.1	山田 忠史	教授	経営管理研究部准教授より都市社会工学専攻都市基盤システム工学講座教授へ昇任
H30.4.1	〃	教授	都市社会工学専攻交通マネジメント工学講座交通情報工学分野教授より経営管理研究部教授へ配置換

【都市環境工学専攻】

H30.3.31	浅田 安廣	(助教)	辞職 (国立保健医療科学院主任研究官へ)
H30.3.31	山下 尚之	(講師)	辞職 (愛媛大学環境学研究科教授へ)
H30.4.1	藤森 真一郎	准教授	新規採用
H30.4.1	中西 智宏	助教	新規採用
H30.4.1	水野 忠雄	講師	GLセンター講師より都市環境工学専攻環境システム工学講座水環境工学分野講師へ配置換
H30.4.1	高岡 昌輝	教授	都市環境工学専攻環境デザイン工学講座と地球環境学堂の併任より配置換
H30.4.1	大下 和徹	准教授	都市環境工学専攻環境デザイン工学講座と地球環境学堂の併任より配置換

H30.4.1	藤森 崇 助	教 授	都市環境工学専攻環境デザイン工学講座と地球環境学堂の併任より配置換
H30.4.1	高野 裕久	教 授	都市環境工学専攻環境衛生学講座と地球環境学堂の併任へ配置換
H30.4.1	上田 佳代	准 教 授	都市環境工学専攻環境衛生学講座と地球環境学堂の併任へ配置換
H30.4.1	本田 晶子	助 教	都市環境工学専攻環境衛生学講座と地球環境学堂の併任へ配置換
H30.4.1	郭 敏娜	特定研究員	新規採用
H30.4.1	Xing Rui	特定研究員	新規採用
H30.9.1	中西 智宏	助 教	都市環境工学専攻環境システム講座水環境工学分野より都市環境工学専攻環境システム工学講座水衛生工学分野へ配置換
H30.6.15	Xing Rui	(特定研究員)	退職

【地球環境学堂専攻】

H30.5.31	乾 徹	(准教授)	辞職 (大阪大学大学院工学研究科教授へ)
----------	-----	-------	----------------------

【地球系事務室】

H30.3.31	上西 正人	(専門員)	退職
H30.4.1	當麻 公子	掛 長	経理事務センター掛長 (Cクラスター事務区会計掛)より財務部経理課本部管理掛長へ配置換
H30.4.1	辻 英祐	掛 長	医学部附属病院経理・調達課物流管理掛長より経理事務センター掛長 (Cクラスター事務区会計掛)へ配置換
H30.4.1	矢野 紋	主 任	経理事務センター主任 (Cクラスター事務区会計掛)より京都国立博物館総務課財務係主任へ配置換
H30.4.1	山林 伸子	主 任	経理事務センター主任 (Cクラスター事務区会計掛)より総合博物館事務掛主任へ配置換
H30.4.1	太田 見恵	事務職員	経理事務センター (Cクラスター事務区会計掛)より総務課図書掛 (化学系) へ配置換
H30.4.1	古森 千尋	事務職員	総務課図書掛 (化学系)より経理事務センター (Cクラスター事務区会計掛) へ配置換
H30.4.1	松重 葉子	事務職員	医学部附属病院経理・調達課契約掛より経理事務センター (Cクラスター事務区会計掛) へ配置換

H30.4.1	萩原 敬三	掛	長	総務課（Cクラスター事務区庶務掛長）よりAクラスター事務区庶務掛長へ配置換
H30.4.1	宮内 友則	掛	長	Cクラスター事務区庶務掛専門職員より総務課（Cクラスター事務区庶務掛長）へ配置換
H30.4.1	常深 久美子	掛	長	教務課（教務課専門職員（Cクラスター事務区教務掛）より教務課留学生掛長へ配置換
H30.4.1	井上 良平	主	任	人文科学研究所総務掛主任より総務課（Cクラスター事務区庶務掛主任）へ配置換
H30.4.1	小島 珠美	事務職員		総務課（Cクラスター事務区庶務掛）より北部構内総務課（数理解析研究所総務掛）へ配置換
H30.4.1	三浦 祐子	事務職員		総務課人事掛（医学・病院構内人事掛）より総務課（Cクラスター事務区庶務掛）へ配置換
H30.4.1	渡邊 政紀	主	任	教務課主任（物理工学科）より教務課（Cクラスター事務区教務掛主任）へ配置換
H30.4.1	井田 真理子	事務職員		教務課（教務掛 地球工学科）より教務掛（工業化学科）へ配置換
H30.4.1	高林 静香	事務職員		本部構内（文系）共通事務部経理課財務掛より教務課（Cクラスター事務区教務掛）へ配置換



(3) 学位授与 (平成29年11月24日～平成30年9月25日)

(課程博士)

Khin Maung Zaw	H29.11.24	地震リスクを有するミャンマーの鋼製橋梁の補修・補強に関する研究 (英文)	三村 典正	H30.3.26	塩害を受けた鉄筋コンクリート構造物への間欠通電方式による電気防食工法の適用に関する研究
佐々木 崇	H29.11.24	次世代石炭火力発電の高効率化とCO2排出量低減を両立させる触媒技術に関する研究	中尾 聡史	H30.3.26	日本における土木を巡る心意現象に関する歴史民俗研究
船附 淳志	H29.11.24	X線吸収微細構造分析を活用した法科学鑑定手法の開発 (英文)	石渡 裕明	H30.3.26	開発途上国における自然災害と防災政策の動学的確率的マクロ経済分析 (英文)
余 暁龍	H30.1.23	活性汚泥におけるFTOHの生物分解特性と構成微生物群に及ぼすPFOAの影響 (英文)	薛 凱	H30.3.26	衝撃荷重による床振動のアクティブ制御のためのモーダルフィルタリング (英文)
PHAM VAN TIEN	H30.3.26	豪雨による地すべりダム発生機構と災害危険度評価 (英文)	劉 燕燕	H30.3.26	鋼製橋脚の2方向地震応答の非線形動力学的特性分析 (英文)
KARLINA	H30.3.26	インドネシア国ロンボク島とスマトラ島を対象にしたENSOの水文気象渇水評価 (英文)	王 文龍	H30.3.26	環境水の総合的毒性評価のための環境エストロゲンの表現型および遺伝子型影響に関する研究 (英文)
EVA MIA SISKKA	H30.3.26	観光依存経済圏における高度成長が水資源状況に及ぼす影響: インドネシア国バリ島を対象に (英文)	森 芳友	H30.3.26	放射性セシウムの浸透等が森林除染の効果に及ぼす要因の分析及び表面残存状況の評価方法の開発 (英文)
平井 章一	H30.3.26	都市間高速道路における休憩行動分析と休憩行動モデルのネットワークシミュレーションへの実装に関する研究	中西 智宏	H30.3.26	送配水システムに流入する浄水中懸濁物質による配水管内環境の形成とその実態に関する研究
廣井 幸夫	H30.3.26	ASR劣化したPC梁構造物のひび割れ密度とコアの力学特性を活用した曲げ耐荷性能評価に関する研究	Vu Kiem Thuy	H30.3.26	土壌浸透処理の持続的運転のための条件探索 (英文)
Nandar Linn	H30.3.26	中部ミャンマーにおける伝統的建築のアイデンティティと現代住宅との融合 (英文)	Yahya Mahzoun	H30.3.26	都市下水処理場における下水汚泥及び下水中汚濁粒子の発熱量とエネルギー回収可能性に関する研究 (英文)
久保田 誠也	H30.3.26	道路基盤地図情報の高度化に向けた空間データ活用に関する研究	竹内 悠	H30.7.23	RO膜処理における低分子量物質の除去率予測手法の開発 (英文)
五井 良直	H30.3.26	振動計測による橋梁ヘルスマonitoringのためのベイズ的損傷検知 (英文)	村上 嘉謙	H30.9.25	海底および陸上地すべりによって生じる津波や津波による砂移動の合理的な推定手法に関する研究
SAKHIAH BINTI ABDUL KUDUS	H30.3.26	局所振動特性に基づく薄肉鋼構造物の損傷評価に関する研究 (英文)	Hosein Falahaty	H30.9.25	非圧縮性流体・構造非線形連成解析のための粒子法の高度化 (英文)
蘇 丹娜	H30.3.26	車両一橋梁の相互作用を考慮した強地震動を受ける橋梁の耐震性能に関する研究 (英文)	ハツ元 仁	H30.9.25	道路ボックスカルバートの耐震設計手法の確立に関する研究
戸田 淳治	H30.3.26	洪水災害及び土砂災害危険度の時空間分布情報を利用した避難意思決定支援システムの構築手法に関する研究	Mohd Raizamzamani bin Md zain	H30.9.25	強風下における斜張橋並列ケーブルの空力不安定性 (英文)
宮川 幸雄	H30.3.26	アーマータ化したダム下流における河床表層の鉛直構造に着目した附着藻類現存量の管理のための土砂供給効果の評価手法	TIN TIN HTWE	H30.9.25	網状流路河川における河床変動と可航流路特性 (英文)
西川 源太郎	H30.3.26	水道配水用ポリエチレン管の耐震性評価に関する研究	白神 新一郎	H30.9.25	真空圧密工法と盛土載荷を併用した地盤の力学挙動の解明
ドイル 恵美	H30.3.26	アカウントビリティ論からみたインフラ開発援助に関する研究	Oscar Sergio Luna Vera	H30.9.25	振動計測に基づくプレストレストコンクリート橋の性能評価 (英文)
呉 双蘭	H30.3.26	橋梁の耐震設計のための断層近傍の地震動に関する研究 (英文)	NAILAH FIRDAUSIYAH	H30.9.25	共同配送システムを評価するためのアダプティブダイナミックプログラミングに基づく強化学習を用いたマルチエージェントシミュレーション (英文)
Angga FAJAR Setiawan	H30.3.26	履歴型ダンパーを用いた高耐震性能橋脚の開発 (英文)	金銅 将史	H30.9.25	コンクリートダムの健全度診断における振動モニタリングの活用に関する研究
Sunio Varsolo Cornago	H30.3.26	持続可能な通学のための交通行動変容支援システム (英文)	NGUYEN, TAN	H30.9.25	基礎地盤沈下を受けた盛土の荷重伝達メカニズムおよび動的安定性 (英文)
ROHAYA ABDUL MALEK	H30.3.26	外部電源方式電気防食を施した鉄筋コンクリート断面補修部の浸透塩分による鉄筋腐食評価 (英文)	青木 康素	H30.9.25	鋼曲げ部材を対象とした一面当て板接着補修に関する研究
			Khalid Muhammad Shehzad	H30.9.25	小土被りトンネルでの地山特性曲線に関する数値解析的研究 (英文)

SAEED MAADI	H30.9.25	公共交通の非加法的な運賃構造を考慮したハイパーバスと社会的厚生最適化 (英文)
楊 淨	H30.9.25	廃棄物最終処分場における水銀挙動に関する研究 (英文)
Arthit Phosri	H30.9.25	粒子状物質への短期曝露が人の疾患に及ぼす単独影響および相互影響に関する疫学的アプローチを用いた検討 (英文)
(論文博士)		
大井 明	H30.1.23	耐荷力を考慮した舗装マネジメントの高度化に関する研究
Lam Huu Quang	H30.3.26	前兆段階にある地すべりの災害危険度評価技術の開発 (英文)
伊藤 秀行	H30.3.26	救援物資ロジスティックスの主体間・地域間連携と効率化に関する研究
風戸 崇之	H30.9.25	高速道路舗装のマネジメントに資する舗装構造評価に関する基礎的研究
桐山 貴俊	H30.9.25	粒子法に基づく地盤大変形解析技術の開発と応用

(4) 学生の進学・就職状況

平成29年度の大学院および学部学生の進学就職状況は次の通りである。(H30.10.1)

(尚、総会時、各学科専攻長報告の数より若干変更有)

	大 学 院		大 学 院		学 部	
	(博 士)		(修 士)		(4 回生)	
博士課程			社基 都社 都環 学舎	2 6 3 1		
修士課程					地球	126
研究生・その他 (他大学)	社基 都社 都環	3 2 1			地球	5
学校関係	都環	1	社基	1		
環境省	都環	1	都環	1		
農水省			都社	1		
防衛省					地球	1
国土交通省			社基 都社	4 1		
海上保安庁					地球	1
独立行政法人	都社	1	都社	1		
都道府県	都環	1	都社 都環	1 1	地球	1
市町村			都環	1		
道路			社基 都社 都環	1 5 1	地球	2
電力・ガス			社基 都社 都環	3 6 1		
鉄道・航空			社基 都社	11 9		
建設会社	社基 都社 学舎	1 1 1	社基 都社 都環 学舎	5 4 1 3	地球	3
鉄鋼・鉄構・機械・ 電機・電子	都社	1	社基 都社 都環 エネ科	10 6 5 1	地球	1
コンサルタント	都社 都環	3 1	社基 都社 都環	15 8 7	地球	1
銀行・商社・ 証券・保険			社基 都社 エネ科	4 5 1		
不動産			社基	2		
シンクタンク			都社	2		
各種外郭団体 (地方公社・事業団含む)	情報	1	都社	1		

	大 学 院		大 学 院		学 部	
	(博 士)		(修 士)		(4 回生)	
情報通信			社基 都社 都環 学舎 情報	1 1 2 1 3		
サービス業・ その他	社基 都社 都環 学舎 エネ科	10 7 5 1 1	社基 都社 都環 学舎 情報 エネ科	7 7 5 2 1 1	地球	10
合計	社基 都社 都環 学舎 情報 エネ科	14 15 10 2 1 1	社基 都社 都環 学舎 情報 エネ科	66 64 28 7 4 3	地球	151
		43		172		151

(5) 国際コースと留学生

工学研究科では、博士後期課程への留学希望者の増加に応じて多くの留学生を受け入れてきたが、教育指導は基本的に日本語を用いて行われているため、優秀な学生でも言語の障壁のため本研究科への応募を躊躇することが数多くあった。このような問題に対応するため、平成13年度から平成24年度まで英語のみを使用する博士後期課程総合工学特別コースが実施された。さらに、社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻では修士課程を対象とする国際コースを平成23年4月から、工学部地球工学科では学部制を対象とする国際コースを平成23年4月から開設している。